

は し が き

本年度 9 名の定期研修員と担当所員との共同研究「家庭科における課題解決学習の試み」を「実践研究集録第 14 集・家庭科編」として刊行いたします。

この集録は 9 名の定期研修員の先生方が、年間にわたり定期的にセンターに集まり、実験や学習指導法について、研修を受け、また、研究・討議を行い、その結果にもとづき実践した報告をまとめたものです。

家庭科教育の指導方法の研究は、小・中ではなかなか活発に行われておりますが、高校では専門分野の教材研究はかなり盛んですが、指導方法についてはやや不足しているように思えます。しかし、質的に多様化する生徒と教育の現代化に即応するために、高校家庭科においても指導方法の研究の必要性が痛感されます。

当センターでは、従来の高校家庭科の授業を反省し、指導法の研究を続けてまいりました。一昨年までの 5 年間は食物分野をとりあげましたが、昨年度からは被服分野での実践研究を行っております。

本年度もまた被服分野をとりあげ、家庭一般及び被服選択の授業で、生徒に自主的に、意欲的に学習と取り組ませるにはどうすればよいかを検討し、その一方策として課題解決学習を試みてみました。生徒の衣生活経営の実態等、身の体験の中から問題をとらえ、それを学習課題として、実験・調査・討議によって解決していくという学習形態で実践してみたわけです。それにより、生徒は研究の喜びを味わい、また、いわゆる「学び方の学習」も習得できるのではないのでしょうか。それが、生涯教育の中で果す学校教育の役割でもありましょう。

本文の 9 つの指導事例は、それぞれに工夫を加えた新しい試みであり、予想以上の効果がみられたもので、各学校における指導の参考に御活用くださるようお願いいたします。

なお、何分にも時間の不足からくる不十分な点もありますが、きたんのない御批判をいただければ幸いと存じます。更に、今後一層の精進と充実を期したいと存じておりますので、よろしく御指導を賜われますようお願いいたします。

おわりに、快く研修の機会と実践研究の場を与えてくださった校長先生はじめ諸先生方に対し、研修員とともに厚くお礼申し上げます。

昭和 52 年 1 月 25 日

新潟県立教育センター所長 北 川 正 司